解説

スポーツのコアバリューを地域に展開するモデル事業

文部科学省 スポーツ・青少年局
スポーツ振興課 スポーツ振興企画室
室岡裕雅氏

地域スポーツとトップスポーツをひとつの土俵に

――平成24年度は名称が変わりましたが、「スポーツコミュニティの形成促進」をテーマとする事業が実施された背景について、ご説明ください。

スポーツ基本法やスポーツ基本計画にも「好循環」と記載されていますが、これまでバラバラに存在していた地域スポーツとトップスポーツが一体化を形成して、トップアスリートも必ず地域から生まれ、育っていくわけですから、そうした優れた人材が機能的循環に地域で指導者として活躍してもらうようなことを考えなければいけないということです。オリンピックでメダルを取っても、すべての方が日本代表監督になるわけではないし、人には向いている、向いていないがありますから、例えば、一自分は子どもたちを教えたいとか、アスリートに生まれ育った地域へ戻ってもらう、そこから世界へまたトップアスリートが育っていくといった、スポーツをうまく循環させていこうという視点で始めたプロジェクトです。

――そうすることでスポーツが持つ価値や可能性をより引き出すことができるということですか。

いわゆるトップスポーツのあり方はどうかではなく、彼ら、彼女らが地域のなかで培ってきた技術的に優れた能力をもって、子どもたちに指導にあたってもらう、そうしたいわば「ホンモノ」と触れることで、「俺たちもああいう選手になりたい」と思うことが、スポーツ振興を図る上で実はとても大きな要素だと思います。もちろん、お役人さんが感じている人と現場で接することで子どもたちのスポーツに対する意欲・関心や技術が高まるということも考えられます。

――平成23年度から前年度同様3つの分野から成る事業が進められました。

トップアスリートによる巡回指導、小学校の体育授業などを支援する小学校体育活動コーディネーター、そしてプロジェクトリーダーによる、それらの連絡調整や地域の課題解決への取り組み、事業の概要や成果はどうですか。

まだ未確定ですが、いまのところ上げた子どもたちのスポーツに対するモチベーションの向上、2点目は、今までにはない連携の中での新たなネットワークの広がりが出てきたこと、3点目には指導者の変化、小学校体育活動コーディネーターとして活躍している指導者はもちろん、経済のリーダー、あるいはスポーツ少年団の指導者もトップアスリートが配置されることによって自分のコーチング能力が高まる、4点目は、拠点クラブ自体の意識改革を促進するなどがアップしました。

――今後もこのプロジェクトは継続されるのでしょうか。

このプロジェクトが何げていく力がまだまだ認知されていないと思います。それらが広がる契機になるよう、スポーツをめぐった環境を目指しているところです。

平成24年度は23年度より1千万円減らして5億4千万円の予算額で、会場クラブを減らさざるをえなかったのは残念に思っています。

拠点クラブをめぐる新たなネットワークの誕生

――地域に生まれたネットワークとはどのようなものですか。

人を活動させるためにはクラブだけで実現されていたものが、例えば、小学校体育活動コーディネーターとして特定の先生にお願いすることによって、これまであまり付き合いがなかった小学校を巡回指導の教室を展開、指導場所あるいは協議会などの人的なネットワークをつくるようになりました。

また、総合型クラブが高齢者の居場所を提供するなどの活動をする拠点クラブの活動を支援することにより、総合型クラブの中でハブとなる、中核となる総合型クラブという意味での拠点クラブでもありますが、もちろん地域スポーツコミュニティの中核であることも重要視しているところです。

――拠点クラブを300に増やす目標と聞きますが

スポーツ基本計画の3章Ⅱの柱の「コミュニティの中心となる地域スポーツクラブの育成・推進」の中の成果目標には、総合型クラブが人口10万人に1つ程度できるように、設置率を市町村において測れる指標にするとともに、総合型クラブを支えることができる「拠点クラブ」を1つ以上市区町村（平成30年の所在地）で育成するなどが盛られています。

スポーツの価値を地域に展開

スポーツコミュニティとして具体的に描かれている姿はどんなイメージのものでしょうか。

「スポーツコミュニティ」という言葉に定義はありません。例えば、中学校区でのコミュニティもあるでしょうし、国際社会で使う場合には、オリンピックムーブメントにかかわるIOCなどの国際スポーツ組織についてもそう表現することもあります。

このプロジェクトにおいては、地域の人たちが好きなときに、いつでも、どこからでもスポーツをできる環境が整えられているというものです。これまでは、トップスポーツはこちらとやればいいというような施策でした。地域スポーツはこちらとやればいいというような施策でした。もちろん、地域に根ざしたスポーツはこうならなければならない部分はありますが、これからの方々も一緒に、下からお年寄りまでやっていただくようなスポーツ環境を整えていきたいと思います。

――スポーツ庁に期待することは。

スポーツ庁ができることによって、スポーツ行政が一元化、一体化されるというメリットがあります。これまでは、文部科学省の中でも、厚生労働省でも、経済産業省でもスポーツ行政が行われていましたが、スポーツ庁ができることによって、スポーツ行政が一元化されるというメリットがあります。

平成24年度「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」選定団体一覧

地区	ブロック	都道府県	市区町村	クラブ名
1	北海道	北海道	札幌市	NPO法人札幌市民スポーツクラブ
2			旭川市	NPO法人SSSスポーツクラブ
3	東北	青森県	八戸市	NPO法人スポーツネットワークはちのへ
4			五所川原市	NPO法人ノルディア
5		岩手県	北上市	NPO法人北上スポーツクラブ
6			滝沢市	NPO法人滝沢総合型地域スポーツクラブ
7		福島県	会津若松市	NPO法人ささえあいしまづ
8	関東	新潟県	長岡市	NPO法人越路クラブ
9			新潟市	NPO法人サスパスポーツクラブ
10		埼玉県	上尾市	NPO法人スポーツ・サンタジュアリー上尾
11			所沢市	NPO法人緑町スポーツクラブ
12		千葉県	千葉市	NPO法人クレインズ・スポーツクラブ
13			木更津市	NPO法人地域総合スポーツ活動センターネットワーク
14			八千代市	NPO法人スポーツカラフル・ライン
15			印西市	NPO法人美郷台総合体育館
16			浦安市	NPO法人ヨコミネットBBC浦安
17		神奈川県	平塚市	NPO法人湘南ベルマーレスポーツクラブ
18			横浜市	NPO法人NPOゴール
19				NPO法人かながわクラブ
20			川崎市	NPO法人川崎総合型スポーツクラブSSC
21		静岡県	沼津市	NPO法人ルーデンスポーツクラブ
22	中部	山梨県	甲府市	ささえスポーツクラブ
23		富山県	一宮市	NPO法人豊明市
24			射水市	NPO法人新湊総合型地域スポーツクラブ
25		石川県	野々市市	NPO法人総合スポーツコミュニティ
26		福井県	坂井市	NPO法人春江メイトンクラブ
27			鯖江市	NPO法人総合型スポーツクラブ
28	近畿	滋賀県	守山市	NPO法人クラブノベット
29		兵庫県	三木市	NPO法人総合型地域スポーツクラブ
30		奈良県	大和郡山市	NPO法人ソシオ総合スポーツクラブ
31		和歌山県	和歌山市	NPO法人アクセススポーツクラブ
32		鳥取県	米子市	米子市体育協会総合型地域スポーツクラブ
33	中国	島根県	大東町	いきいき大東スポーツクラブ
34		岡山県	倉敷市	NPO法人RRSC
35		広島県	福山市	NPO法人アスロン
36	四国	徳島県	吉野川市	NPO法人吉野川スポーツクラブ
37		香川県	丸亀市	NPO法人丸亀スポーツクラブ
38		愛媛県	松山市	松山アドレランドクラブ
39	九州	福岡県	久留米市	NPO法人ウェルスポーツクラブくるめ
40		佐賀県	大和町	NPO法人七賢の里村クラブ
41			唐津市鎮西町	NPO法人でんぐちゃれんじクラブ
42		長崎県	諫早市	NPO法人総合型スポーツクラブ
43		熊本県	熊本市	NPO法人SSC
44		鹿児島県	鹿屋市	NPO法人串良スポーツクラブ
45			姶良市	NPO法人ふれあいスポーツクラブ
46		沖縄県	浦添市	NPO法人アシアクラブ